

・編集後記	・人事異動	・OB・OG紹介	・研究室紹介	・飛翔な日々	・総科直筆掲示板	・特集：それ行け飛翔探険隊 Youme town エコの巻	・特集：エコのページ	・目次・巻頭言	【むくじ】
41	40	34	23	20	18	14	5	2	

巻頭言



総合科学研究科副研究科長
宇田川 眞行先生

本年四月から総合科学研究科副研究科長をすることになった関係で、巻頭言の執筆を依頼されました。私の担当は研究・社会連携で、総合科学研究科での研究の進捗の助けに少しでもなればと考えていますが、どれだけできるかは全く未知数で、少なくとも足を引っ張ることが無いように心がけています。研究について、個人的な見解ではありませんが、誰もまだ見ていない

ことを初めて明らかにできたときの喜びが研究の醍醐味と思っております。一度この醍醐味を味わうと癖になるようです。しかも、一つのことがかかってても、次々に新たな課題が出てくるので、研究は立ち止まることはできません。私の専門は固体物理学で、レーザーラマン散乱という実験手法で、物質が示す多様な性質を、原子の立場から理解することを目的として研究しています。最近、熱電発電についての指針などが得られています。私の研究の詳細な内容については別の機会とすることとして、ここでは、今後の皆さんの参考になればと考え、私の学生時代を振り返ることとしました。

一九六九年の四月に早稲田大学理工学部応用物理学科に入学しました。入学した一九六九年は東大の安田講堂での紛争が一月に終了して、学生運動が下降期に入りかけた時期で、東大の入学試験が無かった年です。下

降期でも、全国的には学生紛争が展開しており、私が入学した理工学部でも教員の軍事研究（確かソナーの共同研究）問題のために学生集会や団交が行われていました。五月には理工学部の無期限の学生ストライキに入り、ストライキは十一月に解除されました。この間全く授業が無く、ストライキ解除後は短い冬休みと三月二五日までの授業がありました。ストライキ中、私自身はいわゆるノンポリで特定の主張はありませんでしたが、クラス集会などでは、左翼的から右翼的な幅広い主張を聞いていて、専門では得られない勉強になったと思います。当時はマルクス主義を高らかに謳う学生が多かったことから、たとえ理系学生でも、マルクスやエンゲルスの著書「共産党宣言、資本論など」に目を通していないと話についていけない様な状況で、今にして思えば当時の学生のファッションの様な気がします。しかし、今から考え

ると内容を十分理解したとは思っていません。ただ、社会科学の本を乱読しましたが、カントの「永久平和のために」は感銘を受けました。この本はカントの哲学書（純粹理性批判や実践理性批判など）に比べると平易に書いてあり、世界平和を考える上でも重要な提案がありますので、一読することをおすすめします。こんな状況でしたので、将来社会科学でも勉強したいと感じましたし、今でも興味があります。二年次になると、物理の専門が一斉に始まり、恥ずかしながら、分からない授業もたくさんありました。分からない科目を全部勉強するよりは集中した方が良くと考え二年では数学を中心にしました。この結果、三年になって物理が分からないことが顕在化し、物理の勉強に精を出すことにしましたが、いくら考えても、例えば熱力学のエントロピーなどは実感がもてず、表層的理解しかできませんでした。

一日中考えても分からないこともありましたが、自分なりに十分に悩んだと思います。この問題は後に「物理の専門書の読み方の悪さ」を卒論指導の教授に指摘されて、これまでの自分だけの勉強で分からない点がずいぶん解消したように感じました。人生では確定的なこととはほとんど無いと思いますので、自分で自分の人生を切り開くためにも、皆さんも十分に悩むことが重要だと思います。

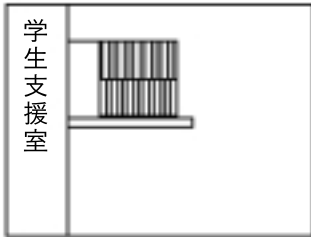
三年の量子力学の授業では、担当の先生が「量子力学の理解は一人で本を読んでいても簡単に分からないので、学生同士のゼミで勉強しなさい」と言われました。私も三人でボームの量子論という本でゼミをしました。ゼミにすると、ここはこう解釈する反論や賛成やいろいろな角度からの見方ができ、理解を深める上で大変良かったと思います。つまり、自分の考え方が正しいのか間違っているかは自分だけで考えていてはなかな

な判断できない場合があり、議論することによって多角的に見ることができるといふことです。勉強でも研究でも仲間との意見交換が非常に重要です。実際、研究で論文だけを読んでいてはなかなか新しい着想が得られません（当然終わっていることが報告されているので）が、学会や研究会での意見交換で新たな着想を得ることができました。最後に、個人的には、その時・その場所、師と呼べる方に会うことができたことが、これまで研究を続けることができた最も大きな要因とと思っています。現在でも良き研究仲間がいて、研究を楽しく続けることができています。皆さんは、今後良い仲間や師に巡り会うことと思いますので、一期一会の精神でたくさん仲間や師を見つけ、自分オリジナルの学生生活や人生をおくってください。

飛翔編集室

引っ越しました。

事務棟 1 階



事務棟 2 階

